



発声練習が大切です。



講師の宮地ゆみさん。



『日光市の歌』初練習！

小来川公民館の合唱講座「みんなであう！」は、5月10月までの第2火曜日午前10時30分正午に、小来川林業研修センターで開催しています。参加者は、60〜80代の男女24名で、ピアノの宮地ゆみさんが講師を務め、合唱経験がない方も楽しく参加できるよう、やさしく指導してくれま

す。現在の練習曲は、「みかんの花咲く丘」「大きな古時計」「一人の手」「瀬戸の花嫁」ですが、取材に伺った日は5月22日に発表されたばかりの「日光市の歌」の初練習がありました。各パートから、佐藤小夜子さん（ソプラノ）と、福田弘子さん（アルト）のお二人に、お話を聞きました。

④ みんなであう！ （小来川公民館）

参加者の声でつなぐ

公民館の教室・講座紹介

Q 講座に参加しようと思ったきっかけは、何ですか。

A 歌が大好きなので、公民館の募集チラシを見て、友人を誘い、すぐに申し込みました。

Q 初練習だった「日光市の歌」の感想を聞かせてください。

A 各地域の四季折々が描かれた歌詞と、優しいメロディーがとても素敵だと思います。

Q この講座の一番の特色は、どんなところですか。

A 久しく会っていないかった同級生や友人と、再会できる場であるところ。子どものころに戻って、友だちと合唱するのは、本当に楽しいです。

講座の皆さんは、11月の小来川文化祭での発表を目指し、これからも楽しく練習に励みます。

市民文芸

川柳 選者 日野原元児

行く当ても無く寂しく石を蹴る
青木竜雄

定年を待つてくれた土と母

吉新勝夫
基地がある町にピエロがやって来た
新家 守

ふるさとで次の一手を指すつもり
吉田貴博

パンのみで生きるしあわせしあわせ
大塩大作

へそくりを挿んでおいた本が無い
吉原一典

具の多いすいとんを食う八月忌
荻原鹿声

俳句 選者 須藤火珠男

歩けるといふ幸せや緑の日

白土武夫
酔ふ程に戦の話梅雨籠
鈴木キヌ子

口ほどに身もこなし得ず夏は来ぬ
徳本英子

夕映えへ消える少年麦の秋
渡辺ミチ子

青嶺背に延年の舞若き僧
福田美代子

朝の雉子君主のごとく丘に立つ
松本武久

旅行誌をたくさん買い込む五月かな
櫻沢総一

短歌 選者 阿久津伸一

人住まぬ屋敷は暗く柿の木をおおえる
藤の花房の滝

根立郷美

木木が花が交歓している植物園小鳥
達よそつと耳を澄まそう

関根眞佐子
いかならん世となりゆくもこの朝
咲く鉄線の萼のしろたえ

名古屋佳子
木漏れ日にチロチロ燃ゆる藪椿名
残り止めてひそやかに咲く

北崎 君

桜散り心安らぐ新緑は夜露にぬれて
朝光に映ゆ

植田義雄

相馬より避難して来し妹の家はいず
こぞ波の彼方か

村田登美

同族の亡きがらを引く赤き蟻叩いた
めの意志とぞ見守る

播磨重美

作品を募集しています！

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名（ふりがな）、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。

応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係

☎(21)5135 ㊟(21)5109

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 日光市山内 2388-3 TEL: 50-1200
ホームページ <http://www.khmoan.jp/>

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO

市民割引券

(1枚につき、5名様まで有効)

小杉放菴記念日光美術館

切り取ってご利用ください

特別企画「サマー・ミーティング2011

いま、高校生と考える震災とアート～アートにできること、できないこと」

3月11日に発生した東日本大震災は、私たちの生活や経済活動に多大な影響を与えて続けています。このような状況において、いま、アートに何ができるのかを考えるサマーミーティングを「あーとネット・とちぎ」とともに開催します。

今回は、自ら被災されながらも被災地での創造活動の回復支援を展開している美術関係者と画家をパネリストに、またこれからの時代を築いていく高校生をゲストに迎えて、被災の現状を伺いながら、被災地の人たちのために、アートにできること、できなことを率直に話し合います。

震災とアートに真摯に向き合う機会です。ぜひご参加ください。

と き：8月20日(土) 午後2時～4時

パネリスト：小泉晋弥氏(茨城大学教授)、間島秀徳氏(日本画家)

ゲ ス ト：県立宇都宮女子高等学校美術部員

進 行：有坂隆二氏(あーとネット・とちぎ、県立さくら清修高等学校教諭)

参 加 費：美術館の入館料のみで参加可(一般…700(300)円、大学生…500(200)円、高校生以下…無料) ※()内は市民割引券を利用した際の料金です。

参加方法：当日午後1時50分までに、美術館受付前にお集まりください。



小杉放菴記念日光美術館。

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO

小杉放菴記念日光美術館

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1(市図書館隣) ☎22-6217

開館時間 午前9時～午後6時(入館無料)

休館日 毎週月曜日、祝日



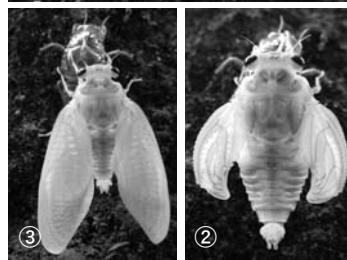
◆企画展紹介④

おもしろいよ、昆虫の生態

昆虫の生態② セミ

カブトムシに続き、暑い夏に見られるセミについてご紹介します。市内ではアブラゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、ヒグラシなど、多数確認されていますが、セミの姿はなかなか見ることができません。しかし、鳴き声により確認できます。アブラゼミは「ジーリジリジリ」、ツクツクボウシは「ツクツクボウシ」、ミンミンゼミは「ミンミンミンミン」「ヒグラシは「カナカナカナ」と鳴きます。鳴くのはオスだけで、鳴き声にはメスを誘い寄せる声や他に鳴くオスの邪魔をする声、敵に襲われた時の悲鳴があり使い分けしているようです。

アブラゼミの羽化の様子



①腹端で体を支え、体を反らして殻から抜け出る。
②体を起こし足で殻をつかんで羽を伸ばす。体は黄褐色になる。
③羽は展開し体は透明になり、30分程羽と体が固まるのを待つ。

◆企画展「おもしろいよ！ 昆虫の生態」9月30日(金)まで

◆催し◆

では、セミには人などの声や音は聞こえるのでしょうか。ファールブルの「昆虫記」には、ヤマゼミの横で大砲を鳴らしても鳴きやまなかったという実験結果が記されています。セミは腹弁の下にある鏡膜で音を感じますが、可聴周波数が狭くて人声や大砲の音は聞こえないのです。

写真はアブラゼミの羽化の様子です。日の出前に場所を定め体を固定すると、殻の背中から体が抜け出て、後には脱皮殻が残ります。